

博士（人間科学）学位論文 概要書

## 連続的な授業観察から見出される授業構造の分析

An analysis of a class structure found by continuous  
observation of classes

2007年1月

早稲田大学大学院 人間科学研究科

岸 俊行

Kishi, Toshiyuki

研究指導教員： 野嶋 栄一郎 教授

本論文は、現在、教育現場に生起している様々な問題を考える際に、その前段階として、今、初等教育の現場で何が行われているのかを明確にする必要があるという問題意識のもと、実際に小学校で行われている一斉授業を連続的に観察することによって、「授業という営み」を記述し、授業の構造を明らかにすることを目的とした。分析に際しては以下の2つの点を考慮した。一つには、授業を「教師と児童のコミュニケーションの連続体」として捉え、その教師と児童のコミュニケーションが、日常の営みと同様に、日々継続して行われているという視点にたって分析を行った。二つには、「授業を構成する構成員（教師・児童）の活動」と「その活動によって成立する授業という場」を分けて考えることにより、授業内での教師の活動を把握するとともに、授業という場そのものを鳥瞰的に把握することを試みた。

本論文では、授業内の教師の行動の特徴を明らかにするために研究1～3を行った（第4章）。また、授業という場を客観的に測る指標として授業雰囲気に着目して、授業雰囲気の構成因子を探索的に明らかにするために研究4～6を行った（第5章）。さらに、授業内での教師と児童の相互交渉の検討として、教師の児童への働きかけの特徴を明らかにするために研究7～9を行った（第6章）。

研究1では、授業中の教師の発話に着目し、相関分析およびクラスター分析を行った。その結果、教師の日々の授業内発話の安定性が明らかになったと同時に、教師の教授スタイルが4つの群に分けられることが明らかになった。研究2では、授業中の教師の児童への指名行動に着目し、相関分析を行った。その結果、教師の指名行動にも教師の発話と同様に高い安定性があることが明らかになった。研究1、2より教師は自らの教授方略を内面化している可能性が示唆できる。この教師の有する教授行動の高い安定性を崩すことが難しいならば、教授行動の固定化にもつながる危険性も指摘できる。研究3では、教授行動のスタイルが異なる2人の教師に着目し、より詳細に教授行動の違いとその差異について検討を行った。その結果、教授スタイルの異なる教師においても、差のない教授行動と差のある教授行動があることが明らかになった。このような差のある教授行動が授業の雰囲気に影響を与えている可能性が示唆された。

研究4では、授業雰囲気の探索的検討を行った。授業ビデオを教師・児童ではない第三者に視聴してもらい、SD法を用いた授業雰囲気の評定を行った。その結果、授業雰囲気と教師の教授行動に関連があることが明らかになった。研究5では、研究4と同様の素材・手法を用いることにより、授業雰囲気尺度の作成を行った。また、その信頼性と妥当性の検討、および、授業雰囲気の特徴について検討を行った。その結果、授業雰囲気は三因子構造であることが示唆された。また、作成された授業雰囲気尺度の妥当性も確認された。さらに、授業雰囲気と教師の教授行動が関連していることが明らかにされ、授業雰囲気の認知には、評価者の価値観が影響を及ぼしている可能性が示唆された。研究6では、授業雰囲気尺度を用いた授業雰囲気の評定を現役の教師に実施し、現役の教師の授業雰囲気認知の特徴について検討を行った。その結果、教師の授業雰囲気の認知は、学生の認知と比べ

て異なることが明らかになった。

研究7では、教師の児童への働きかけの特徴を明らかにするために、小学校2年の1クラスを対象に、授業中の教師が用いる児童への「指示・確認」の特徴を検討した。その結果、教師は「指示・確認」を多用することにより、児童との相互交渉の中で、授業自体をコントロールし、また、教師の発言に強制的意味合いを付与している可能性が示された。研究8では、教師の児童へのフィードバックの現状を数量的分析により明らかにした。その結果、教師は一斉授業の中では、結果の正否のみの伝達が殆どであり、その正否の伝え方に差異があることが示された。研究9では、一斉授業の中の児童の予想外応答場面に着目して、予想外応答場面における教師の児童へのフィードバックの特徴を明らかにした。その際に、教師のフィードバックを児童への影響という観点からカテゴリーに分類し数量的分析を行うとともに、特徴的な事例を取り上げて解釈的分析を行った。その結果、数は決して多くはないものの、教師は児童にマイナスの影響を及ぼす可能性のあるフィードバックをする場合があることが明らかになった。

以上の研究結果の知見より、以下の事が示唆された。教師が持っている教授行動の固さは、教師の教授スタイルとして日々の授業に現れてくる。この固い教師の教授行動が、授業の雰囲気に影響を与え、更には、多様な児童の応答に対するフィードバックとして、児童にも影響を及ぼしている可能性が示唆された。